

住友化学 i - 農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第140号 平成28年8月31日
 発行 住友化学(株) アグロ事業部
 お客様相談室 0570-058-669
 編集者 太田有香
 発行責任者 竹迫昭弥

目次

農家さん訪問記 (124) 【沖縄・レモン】	p. 1
畑のごはん「肥料の話」【楽一】	p. 6
今月のご相談から【使用時期/ダコニール1000 /ベンレート水和剤/スマライム】	p. 11
第3回農業普及活動高度化全国研究大会資料 【北海道・小麦】	p. 12
農薬登録情報	p. 18
9月のおすすめ製品	p. 19
【お知らせ】ファーム茨城定植 他	p. 20
i-農力だより農園	p. 21
美味しい時間へようこそ♪	p. 22
編集後記	p. 23



スイレンとオシドリ
 富樫 信樹 画

農家さん訪問記(124)

今月は「訪問農家さん募集」にご応募いただいた農家さんをご紹介します

エメラルドブルーに囲まれた島で、植物の声を聴く。

東京から飛行機で約3時間——石垣島上空に近づくとエメラルドブルーの海が見えてきました。今回の取材の目的地は、近年、本土から移住する人が増加しているという沖縄県の石垣島。

この島は、大小30余の島々で構成される八重山群島の中に位置し、平均気温24℃、平均湿度は、なんと77%！もあるそうです。空港を降り立つと強い日差しと湿気を含んだ潮風が頬をなでていきました（そう、まさに湿気になでられるという感覚です）。

（訪問日：7月12日）



須川さんの園地には様々な果樹が生育

レンタカーで海岸線を走り、向かったのはレモン農家 須川貴夫さんのご自宅。名蔵湾を見下ろす丘に建つ素晴らしいロケーションに、しばし言葉を失います。須川さんは現在66歳。10年前に大手TV局を早期退職し、奥様と一緒に東京からこの石垣島に移住してきました。

「人間関係のネットワークや、新しいライフスタイルの基盤は構築するのに10年はかかると読んでいました。60歳過ぎて定年してからのリスタートだと、10年かけて基盤ができたと思ったらもういい歳でしょ？だから、早めに新しい人生をはじめようって決断したんです」。

そう言って目を細める須川さんが頭をなでるのは、愛犬のララちゃんです。ラブラドルレトリバーのララちゃん（メス、9歳）は、園地にもよく一緒に出掛けるという大切な家族の一員。とても人懐っこく、取材中もテーブルの下から顔を出しては私たちの会話に加わろうとします。石垣島という環境で暮らすララちゃんが、普段目にするワンちゃん達よりも大らかな性格に見えるのは、決して気のせいではないはず。



園地にも一緒に出掛けるというララちゃん

新しい人生をかけた果樹栽培は、独学で苗づくりから!?



森のパニラと呼ばれるアテモヤ（上）とイチゴのような食感のストロベリーグアバ（下）

そんな須川さんが農業、クルージングなどの観光、そば・パンづくりなどセカンドライフの職業を模索してきた中で、めぐりあったのが果樹栽培でした。

石垣島にある熱帯果樹の研究所に見学に行った際、熱帯果樹栽培の第一人者とも言える先生に出会い、アボカドの苗木を育てることになったのがそのきっかけだそうです。

その先生からの指導で、今でも実践しているのは『苗は自らつくりなさい』という教え。須川さんは、まず『植物の基本』を勉強することから始め、独学で熱帯果樹栽培を学んでいきました。

「熱帯果樹栽培では、苗からつくることで、病虫害の被害のない健苗を育てることと、見えない変化に気づくようになることが大事なんです。植物の声に耳を傾けるということですね。そうすると、ちょっとした変化にも気づくようになり、果樹栽培が楽しくなる。そして、自分自身も成長することができるわけです」と須川さんはおっしゃいます。

重機を一切使わずに、自らの手でジャングルを開墾

人生を二度楽しみたい——そんな想いを胸に石垣島で再スタートを切った須川さんを待ち受けていたのは、未開のジャングルを開墾し、園地を切り開いていくという大変な作業でした。まず大きな木を切り倒すために、近くの小さい木や枝を切る。そうすることで少しずつスペースを広げていく。切った木や枝は細かくして切株の根元で燃やす。そんな作業を重機も使わずに、3年かけて一人黙々とやり遂げた須川さん（木の切株など、その開墾の名残を見せていただきましたが、『この園地を一人で開墾？』と感心せずにはられません）。

苗から育てていることもあり、実際に実をつけ、安定した収益が得られるようになるのは数年先の話。当初の5年ほどは自宅のスペースを活用し、ハーブ栽培とそのハーブを使ったカフェを運営されていました。



海を見下ろす須川さんのご自宅
以前はカフェとしても活用されていました

今までに食べたことのない、衝撃のレモンとは？

現在、約1,000坪ある園地には、さまざまな種類のトロピカルフルーツが育っています。その主力となるのが、「マイヤーレモン」というオレンジとレモンの交配種。「石垣島レモン」というマークで商標登録も取得されています。この品種は、太平洋戦争終了後、ハワイ大学に在籍する日系3世の教授が大学で栽培していた最優良品種を、沖縄の復興を願い、石垣島に持ち込んで植樹したもの。「私はTV局で取材番組の技術担当をしていたんですが、その仕事の関係で世界30カ国以上の国々のさまざまな食べ物を口にしてきました。それで、10年前に初めてマイヤーレモンを食べた時に衝撃を受けたんです。コクのある酸味とジューシーな果汁、豊かな香り、今まで食べたことのないまろやかなレモン…。世界を旅して自分の舌には自信があったから、これなら行ける！」と確信しました」と須川さんは当時のマイヤーレモンとの出会いを熱く語ります。

苗木から始まった石垣島レモンも4年前からネット販売を始め、昨年は1.3tもの収量が得られるようになりました。石垣島レモンにかける須川さんの情熱は、並々ならぬものがあります。コンセプトは『手間ひまかけて栽培にこだわったプレミアムレモン』。防風林の役割を果たすジャングル、燦々と降り注ぐ太陽と海のミネラルといった環境を活かし、地下20mの井戸水の利用、落ち葉を利用した潤沢な腐葉土に年3回の鶏糞散布、化学農薬や化学肥料になるべく頼らないオーガニック栽培など、徹底したこだわりで差別化を図っていらっしゃいます。



生育中のマイヤーレモン。食べ頃までにはあと1ヵ月以上かかります

毎日の枝管理など、きめ細かな栽培が生むプレミアム

「その他にも、さとうきびの葉柄を敷きワラのように樹の根元に敷き詰めて、有機液肥を入れてあげるんです。そうすると、大量の微生物が発生して根元から二酸化炭素が発生し、葉裏から



マイヤーレモンは毎日、枝管理を励行

吸収される。それが食味に良い影響を与えてくれるんです。土の中のミミズも増えるんですよ」と須川さん。果樹の重要管理作業である『剪定』に関しても、マイヤーレモンではきめ細かい管理が必要なのだそうです。1月、2月には大きく枝を剪定し、3月以降は通年で毎日枝管理を励行しなければなりません。細い枝や弱い枝は気がついたらその都度間引き、丈夫な枝に養分を集中させるのだそうです。

須川さんの手がける石垣島レモンの噂は、遠く離れた東京にも伝わり、老舗イタリアンレストランのオーナーシェフに「こんなレモンがほしかった」と言われ、神奈川や東京に店舗を持つ高級中華料理店にも出荷されているのだとか。最近では樹が成木に近づいてきたことで収量が増え、あと数年で現在の倍以上の年間3~4tになるのではないかと、とうれしい悲鳴の須川さんでした。

『熱帯果樹を楽しむツアー』で地球の歴史に触れてみる

「植物を知ることは、かけがえのないこの地球を知ること」——須川さんはそんなテーマを掲げ、『熱帯果樹を楽しむツアー』を実施。ウェブサイトなどで参加者を募集し、定期的に開催しています。私たちも、特別にその一部を体験させていただくことに。自作のイラスト解説図を携え



「熱帯果樹を楽しむツアー」では、自作のイラストでガイド

ながら、園内の熱帯果樹について須川さんのガイドが始まりました。

「例えば、この“琉球ガネブ”という品種の山ぶどうは、すごく生命力が強くて、害虫が嫌がる臭いを出します。だから、虫に食われることがないんですね。そんなことを紹介すると、参加者の方は『え？ ホントですか？』ってびっくりされるんです。その反応が私の楽しみでもあるんですが（笑）」。

須川さんの園内には、マイヤーレモンのほか、シークワサー、アテモヤ、アボカド、ストロベリーグアバ、チェリモヤ、ピタンガ、ホワイトサポテ、アセロラ、ライチなど多彩な熱帯果樹が育っています。本人も「何種類あるのか数

えたことがない」というほど。ホワイトサポテは、ジュースにしたものをご馳走になりましたが、独特の甘みと香りが印象的で、たちまちこのフルーツのファンになってしまいました（みなさんも機会があれば食べてみてくださいね!）。

「植物の声を聴くことは生涯のテーマ」と語る須川さん。植物に囲まれ、ゆっくりとした時の流れの中で、小さな幸せを連綿と紡いでいく。そんな暮らしを同年代の方にもおすすめしたい、

とおっしゃいます。——その人の人生は顔に出る、と言いますが、須川さんの優しい笑顔からは、まさに幸福のオーラが満ち溢れているようでした。

『熱帯果樹を楽しむツアー』は一年を通じて実施しているとのことでした。時間は 10:00～11:00、大人 1,500 円、小・中学生 700 円です。予約が必要なので熱帯果樹の魅力を経験したい方はぜひ参加してみてください！

(玉置・鈴木)



ホワイトサボテの生ジュース、いただきました

■石垣島レモン

TEL 0980-87-7170

<http://ishigakijima-lemon.com/index.html>



かんきつの害虫防除に
ダントツ水溶剤

[目次へ戻る](#)

畑のごはん 「肥料の話」

試験データから見る“楽一”の性能と特長

i-農力だより 124号（2015年4月）で倒伏軽減剤入り水稻穂肥“スミショート”の性質と特長について、委託試験結果に基づいて報告しました。記事掲載後、ありがたいことに“楽一”についても同様にまとめてほしいとの声をいただきました。“楽一”は倒伏軽減剤が入った水稻用基肥一発肥料です。お客様相談室へのお問合せでも「楽一には色々な銘柄があるが、どのように使ったら良いか」等の質問をしばしば承ります。そこで今回、“楽一”について、日本植物調節剤研究協会を通じて行った委託試験結果をまとめて、その性能と特長をご報告します。

“楽一”は下記の特長がある水稻用基肥一発肥料です。

- ①倒伏軽減剤“ウニコナゾールP”を含んだ、水稻の倒伏を軽減する基肥一発肥料です。
- ②“ウニコナゾールP”が幼穂形成期ごろに効き、節間の伸長を抑制して倒伏を軽減します。
- ③基肥一発肥料なので追肥や穂肥の必要がなく、省力となります。
- ④安定多収、品質の安定が期待されます。

（1）楽一の銘柄

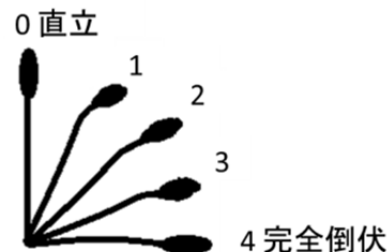
まず、楽一の銘柄および成分を表1に示します。楽一には表1に示す7銘柄があります。銘柄が7種ある理由は、①基肥での施肥窒素量が地域や品種で異なること、②土壌条件や施肥方法で節間の短縮効果が異なるため、ウニコナゾールPの含量が異なること、③東北向けは、気象条件を考慮して、肥料に含まれる被覆尿素の溶出タイプを北日本に合わせていること、などです。

表1. 楽一の銘柄と成分、使用目的

銘柄	楽一18	楽一20S	楽一20W	楽一21	楽一25	楽一27	楽一28N
成分(N-P-K)	18-12-12	20-11-11	20-12-12	21-11-10	25-10-8	27-10-7	28-10-7
ウニコナゾールP含量(%)	0.0040	0.0020	0.0030	0.0040	0.0040	0.0040	0.0030
使用目的	節間短縮による倒伏軽減、施肥						
荷姿	15kg包装						

（2）楽一の倒伏軽減効果と収量、収量構成要素

これら7種類の楽一の委託試験結果をまとめたものが表2です。この表から楽一の特徴がよくわかります。まず稈長は対照区が90.2cmです。コシヒカリの栽培目標を調べると、多くの地域で90cm以内となっています。これは、稈長が90cmを超えると倒伏が顕著になるためです。委託試験結果でも、対照区の稈長はほぼこの目標値です。倒伏程度は0：無～4：



甚（完全倒伏）の5段階表示で平均2.1ポイントと、稲株が約45°傾いている状態です。これに対して楽一区では、稈長が82.4cmと7.8cm短くなっています。その結果、倒伏程度は対照区よりも1.0ポイント軽減され、なびく程度（1.1ポイント）に収まっています。

収量および収量構成要素を見ると、穂数（本/m²）が楽一区では456本と対照区の411本に比べて11%ほど増加しています。つまり有効分げつ数が増えるということです。一方、一穂粒数は69.8個で対照区の78.0個に比べて8.2個、約10%減少しています。穂数が増え一穂粒数が減少しますが、m²当たりの粒数は楽一区および対照区はほぼ同数で、面積当たりの粒数が減少することにはなりません。また、登熟歩合が2.6ポイント、千粒重も若干増加する傾向があり、その結果、玄米収量は、対照区が510kg/10aであるのに対して楽一区は535kg/10aで、25kg/10aの増収となっています。

表2. 楽一の倒伏軽減効果と収量、収量構成要素(委託試験の平均値)^{注1}

	N成分 (kg/10a)	ウニコナ ゾールP 施用量 (g/10a)	稈長 (cm)	倒伏 程度 (0:無 ~4:甚)	穂長 (cm)	玄米収量 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	一穂 粒数	粒数 (千粒/m ²)	登熟 歩合 (%)	千粒重 (g)
楽一区	6.3	0.93	82.4	1.1	17.6	535	456	69.8	31.1	80.1	22.0
対照区	6.2	0	90.2	2.1	18.0	510	411	78.0	31.8	77.5	21.6

注1：玄米収量は坪刈り等で行った実測値。本表の収量構成要素からも収量は計算できるが、実測値と比較すると、計算値の方が20kg/10a程度大きい数値となる。

(3) 楽一には4つの施用方法があります。

次に楽一の施用方法と効果を見ます。楽一は施肥方法や栽培方法で4つの使用方法が適用となっています(表3)。水稻には移植栽培と直播栽培がありますが、移植栽培では、①水田土壌に全面施用・土壌混和する方法、②田植え時に側条施用する方法、この2つがあります。直播栽培でも、③播種前に水田土壌に全面施用・土壌混和する使用方法、④播種と同時に側条施用する方法があり、合計で4つです。楽一21、27および28Nの3銘柄はこれら4つの使用方法すべてに適用がありますが、楽一18、20S、20Wおよび25は直播栽培の播種時側条施用の適用がなく、使用できません。

表3. 楽一の銘柄と使用方法

銘柄	水稻 栽培方法	移植栽培		直播栽培	
	使用時期	耕起~代かき時	田植え時	耕起~代かき時	播種時
	使用方法	①全面施用土壌混和 (全層施肥)	②側条施用 (側条施肥)	③全面施用土壌混和 (全層施肥)	④側条施用 (側条施肥)
楽一18		○	○	○	-
楽一20S		○	○	○	-
楽一20W		○	○	○	-
楽一21		○	○	○	○
楽一25		○	○	○	-
楽一27		○	○	○	○
楽一28N		○	○	○	○

注：「○」は農薬の適用あり、「-」は適用なしを示す。

(4) 楽一は側条施用で倒伏軽減効果が高くなります。

楽一のこの4つの使用方法での倒伏軽減効果と収量について、委託試験結果を栽培方法と施用方法に分けてまとめました(表4)。試験は通常、楽一の施用量を2段階とって行います。高施用量区と低施用量区です。表4は、両施用量区結果とも用いた平均値です。結果を見ると、移植栽培の場合、楽一を全面施用土壌混和施用すると稈長が84.3cmになり、対照区と比較して5.6cm稈長が短くなる結果です。倒伏程度は0:無~4:甚(完全倒伏)の5段階評価で1.0ポイント。対照区は1.7ポイントなので0.7ポイント倒伏を軽減する結果となっています。

移植栽培で楽一を側条施用した結果は、対照区の稈長が89.8cmだったのに対して、楽一区は

80.3cmと9.5cm 稈長が短くなっています。その結果、倒伏程度は1.1ポイント軽減されます。全面施用土壌混和施用と側条施用を比較すると、側条施用で短稈効果が強く出ることが分かります。この性質は楽一の使い方の重要なポイントです。

直播栽培の場合は更にこの傾向が顕著となります。直播の場合、楽一の全面施用土壌混和では稈長は4.1cm短くなりますが、直播の側条施用（播種時に肥料を種籾近傍の土壌中に施用する方法）では対照区よりも10.5cm短くなる結果です。直播側条施用の試験では、対照区の稈長が平均94.1cmと長くなる傾向があり、対照区の倒伏程度は3.2ポイントと強く倒伏しています。この栽培条件で楽一の側条施用では倒伏程度が1.7ポイントと、対照区よりも1.5ポイントも改善する結果で、収量は楽一区が対照区よりも45kg/10aも増加する結果となっています。直播栽培では楽一の播種時側条施用は非常に有効でお薦めです。

表4. 楽一の施用方法と倒伏軽減効果、収量(委託試験まとめ)

栽培	楽一 施用方法	試験区	ウニコナゾールP 「平均」 施用量 (g/10a)	稈長 (cm)		倒伏程度 (0:無~4:完全倒伏)		収量 kg/10a	
				測定値 平均	差 (楽一-対照)	測定値 平均	差 (楽一-対照)	測定値 平均	差 (楽一-対照)
移植	全層混和	楽一	0.95	84.3	-5.6	1.0	-0.7	549	20.2
		対照	0	89.9		1.7		529	
	側条	楽一	0.87	80.3	-9.5	0.8	-1.1	554	16.0
		対照	0	89.8		1.9		538	
直播	全層混和	楽一	1.05	82.3	-4.1	1.8	-0.6	519	21.0
		対照	0	86.4		2.4		498	
	側条	楽一	0.97	83.6	-10.5	1.7	-1.5	478	45.1
		対照	0	94.1		3.2		433	

注：施肥した肥料成分には大きな差はない。

(5) 楽一の効果は土質で変わります。

楽一の効果は土質でも変わります。表5に肥料持ちの良い土壌と肥料が抜けやすい土壌で楽一の効果がどうなるかをまとめました。楽一の試験を行った圃場の土壌が、埴土や黒ぼく土ならば肥料持ちが良い土壌、砂土や砂壤土、壤土は肥料が抜けやすい土壌に分類しました。またウニコナゾールPの施用量を同レベルにするために、施用量が0.8g/10a以上の試験結果をまとめました。肥料が抜けやすい土壌の試験例は7例と少なく、それも全面施用土壌混和处理の試験のみでした。結果をみると、肥料持ちの良い土壌では、全面施用土壌混和施用で稈長が楽一区で86.1cmとなり、対照区と比較して4.5cmほど短くなっています。目標の稈長は80cm台前半なので少し短稈効果が弱い結果です。一方肥料が抜けやすい土壌では稈長が78.8cmと80cm以下となっており、対照区との差も8.8cmで、稈長の抑制効果が強く出ることが分かります。

なぜ肥料が早く抜ける土壌で短稈効果が強く現れるかですが、倒伏軽減剤ウニコナゾールPは粘土質や腐植質などに強く吸着される性質があり、その結果、稲の根から吸収されるウニコナゾールPの量が少なくなります。一方、砂地のような土壌はウニコナゾールPを吸着する腐植質が少ないので、根から吸収されるウニコナゾールPも安定し、短稈効果が強く出ます。

なお、肥料が抜けやすい土壌では、全面施用土壌混和处理でも短稈効果が少し強く出るようで、ウニコナゾールPの含量が少ない銘柄(20S、20W、28N)がお薦めです。一方、肥料持ちの良い土壌の全面施用土壌混和处理では短稈効果が弱い場合もありますので、側条施用が適しています。

表5. 土質と楽一の倒伏軽減効果、収量(委託試験まとめ^{注2})

施用方法	土質 ^{注1}	区	試験数	チッソ施用量 (kg/10a)	ウニコナゾールP施用量 (g/10a)	稈長 (cm)	稈長の差 (cm)	倒伏程度 0:無～ 4:甚	倒伏程度の差 楽一区 -対照区	収量 (kg/10a)
全層	肥料持ちが良い 土壌	楽一	18	6.7	1.02	86.1	-4.5	1.1	-0.8	567
		対照		6.5	0	90.6		1.9		526
	肥料が抜け やすい 土壌	楽一	7	7.2	0.96	78.8	-8.8	0.3	-1.6	526
		対照		7.8	0	87.6		1.9		525
側条	肥料持ちが良い 土壌	楽一	19	7.6	1.15	81.1	-11.2	1.3	-1.5	592
		対照		7.5	0	92.3		2.8		557

注1：肥料持ちが良い土壌：軽埴土、黒ぼく土。

肥料が抜けやすい土壌：砂土、砂壤土、壤土。

注2：ウニコナゾールPの施用量が0.8g/10a以上の試験結果をまとめた。

(6) 施用方法、土質と推奨楽一銘柄

①全面施用土壌混和(移植栽培)

全面施用土壌混和での土壌条件と推奨する楽一の銘柄を表6に示します。○が推奨する銘柄で、

表6. 土壌と推奨する楽一銘柄 (全面施用土壌混和)

銘柄	土壌条件(肥料持ち)			備考
	良い	普通	抜けやすい	
楽一18	○	◎		施肥チッソ量が少ない地域向け
楽一20S		○	◎	施肥チッソ量が多い地域では40kg/10a
楽一20W		◎	○	
楽一21	○	◎		
楽一25	○	◎		施肥チッソ量が多い地域
楽一27	○	◎		東北などの寒冷地向け
楽一28N		○	◎	東北などの寒冷地向け

注：○は適する、◎は特に適することを示す。

表7. 土壌と推奨する楽一銘柄 (側条施用)

銘柄	土壌条件(肥料持ち)			備考
	良い	普通	抜けやすい	
楽一18	◎			施肥チッソ量が少ない地域
楽一20S		◎	◎	施肥チッソ量が多い地域では40kg/10a
楽一20W	○	◎	○	
楽一21	◎	○		
楽一25	◎	○		施肥チッソ量が多い地域
楽一27	◎	○		東北などの寒冷地向け
楽一28N		◎	◎	東北などの寒冷地向け

注：○は適する、◎は特に適することを示す。

◎はその中でも特に適する銘柄を示します。ウニコナゾールP含量が低い楽一20Sや28Nは肥料が抜けやすい砂質の土壌に特に適します。また、肥料持ちが普通の土壌では、楽一18、20W、21、25、27等の銘柄が適しています。肥料持ちの良い土壌でも楽一18、21、25、27の銘柄をお勧めします。

②側条施用(移植栽培)

側条施用の場合の推奨する銘柄を表7に示します。肥料の抜けやすい土壌ではウニコナゾールP含量が低い楽一20Sおよび28Nが好適です。普通の土壌では、楽一20S、20Wおよび28N、肥料持ちの良い土壌では楽一18、21、25および27など、ウニコナゾールP含量が0.004%の銘柄をお勧めします。

表 8. 土壌と推奨する楽一銘柄 (直播栽培、側条施用)

銘柄	土壌条件(肥料持ち)			備考
	良い	普通	抜けやすい	
楽一21	◎	◎	○	抜けやすい土壌では施用量を減らす
楽一27	◎	◎		東北などの寒冷地向け
楽一28N		○	◎	東北などの寒冷地向け

注：○は適する、◎は特に適することを示す。

③側条施用 (直播栽培)

直播の場合、楽一の側条施用は非常に成績が良くお薦めの肥料です。直播で使える楽一銘柄は 2016 年 7 月時点で 3 銘柄です (表 8)。その中で、関東以西では楽一 21 が肥料持ちの良い土壌、普通の土壌でお薦めです。また、東北地域では、肥持ちの良い土壌では楽一 27、肥料が抜けやすい土壌では楽一 28 Nをお薦めします。

(7) まとめ

楽一は、倒伏軽減剤ウニコナゾール P を含む基肥一発肥料ですが、チッソ成分の溶出をコントロールすることに加えて、ウニコナゾール P の溶出もコントロールし、基肥として施用しながら稈が伸びる時期に肥効と薬効の両方が発揮されるように調整したユニークな肥料です。その効果は、土壌条件や水稻の栽培方法で異なるため、適した銘柄と施用量を選択する必要がありますが、楽一の性質を把握するとそれほど難しいことはありません。また、直播でコシヒカリを栽培する場合、楽一による倒伏軽減効果のメリットは大きいです。是非とも一度その効果を確認してみてください。

(泉)



[目次へ戻る](#)

「知りたい！聞きたい！農薬・肥料」のお客さま相談室より

今月のご相談から



1. 神奈川県 指導機関の方

Q：きゅうり栽培農家からの質問です。ダントツ粒剤や水溶剤は使用時期が前日になっていますが、収穫後に薬剤処理すると24時間を守れなくなります。どのように考えれば良いでしょうか？

A：収穫前日までとは、農薬の散布が終了し24時間経過してから収穫を開始することが原則です。一連の作業として、朝に収穫しその後速やかに農薬を散布し、翌朝同じ時間帯に収穫するような作業体系であれば問題ないとされています。但し、収穫終了後の農薬散布が夕方の場合、翌日の夕方になるまで収穫することはできません。

2. 東京都 一般の方

Q：家庭菜園でトマトやミニトマトなどの野菜類を栽培しています。ダコニール1000の使用時期がトマトは収穫前日ですが、ミニトマトは収穫7日になっています。ミニトマトも毎日収穫しており、本剤をうどんこ病の防除に使用したら1週間は収穫ができません。同じトマトなのに使用時期が異なるのは何故ですか？

A：登録上は、ミニトマトは果実の直径が3cm以下のトマトと規定されております。その為、トマトとミニトマトでは使用時期や使用回数等の安全使用基準が異なります。なお、本年7月20日付でミニトマトに対する本剤の登録が、「希釈倍数1000倍、収穫前日まで2回以内」の使用に変更になりました。本剤はミニトマトに対しても収穫前日まで使用することが出来るようになりました。

3. 青森県 指導機関の方

Q：ペンレート水和剤は、ほうれんそうの萎凋病に希釈濃度2000倍で1平方メートル当たり3リットルの灌注登録があります。灌注方法として灌水チューブを使用しますが、登録上の問題はありますか？

A：本剤の灌注方法では使用器具などのコメントは記載されていません。灌注の為の使用器具や使用手段は限定されませんので、灌水チューブでの灌水は登録上問題ありません。ラベル記載の使用時期、希釈倍数、使用液量など、登録内容に従い使用してください。

4. 福島県 農家の方

Q：いちごを栽培している農家です。スミライムの特徴を教えてください。

A：スミライムは、①水溶性の石灰が9.5%含まれている、②窒素成分7%すべてが硝酸態窒素であり、特に低温時期に効果が高い、③微量要素が含まれている、などの特徴があります。低温期のいちごの栽培には特にお薦めです。

(酒井)

[目次へ戻る](#)



昨年11月18日・19日に東京で開催されました「第3回農業普及活動高度化全国研究大会」で発表された資料の中から、一部をご紹介します。（掲載資料は発表されたものに準じます）

第3回農業普及活動高度化全国研究大会資料

課題名 ムギの根系に合わせた施肥改善で、めざせ！1トン穫り作物の「根」は訴える！

—激しい気象変化に対応した栽培管理の提示—

所属・氏名 北海道オホーツク総合振興局網走農業改良普及センター清里支所

（現在は上川農業改良普及センター勤務）藤原 啓介

<活動事例の要旨>

清里町は、北海道を代表するのコムギ多収地帯である。その中で、江南地区は町平均の8～9割程度の収量水準であるため早急な改善が求められていた。当センターでは、この低収要因について聞き取り調査及び土壌断面調査を関係機関と連携して実施し、それが土壌に起因することを明らかにした。その改善対策として、不良土壌（km-5a層）が出現する深度によって根系が変化することから、根系に合わせたコムギの追肥方法を提案した。

改善技術の普及は大型実証圃を設置し、提案技術の有効性を確認しながら、根系マップを作成して農家に提案した。この取組で急速に施肥技術が普及し、対象モデル地域の収量・品質が改善された。また、対象地域での改善効果が大きかったことから町全体へ技術が波及した。改善ポイントが作物の根系に合わせた施肥改善であったことから、他の作物での応用が検討されている。

取組を通して、優れた品質の「きたほなみ」の安定生産が可能となり、地場産コムギで「うどん・生ひやむぎ」が商品化され、うどんは学校給食に提供されるようになった。



写真1 斜里岳麓の畑作地帯
（枠内が江南地区）

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題の背景と課題

清里町の農業は、コムギ・テンサイ・バレイシヨを中心とした、道内でも有数な大規模畑作経営が展開されている。なかでもコムギは基幹作物として、重要な位置を占めている。また、北海道では「麦チェン」をテーマに、地場産コムギの消費拡大を推進している。これに合わせて、清里町でもコムギの地産地消の動きが始まろうとした時期で、コムギを中心とした街づくりを推進していくためにも高品質・安定生産が求められていた。

平成21年産より導入された、「きたほなみ」の栽培法の確立が求められていたことから、対象地域を町平均と比較して8～9割程度の収量水準である江南地区（写真1、図1）を選定し、この地域を中心として全町へ技術の波及を図った。また、新品種「きたほなみ」は、従来の品種より2割多収で良品質なことから、「1t穫り」を目標として掲げた。

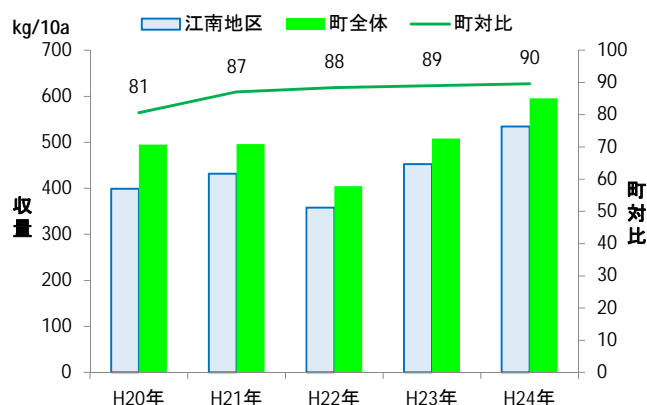


図1 秋まきコムギの収量推移

(2) 課題・目標の設定

コムギの低収要因は、聞き取り調査と土壌断面調査から、下層土に不良土壌 (km-5a 層) (図2) が存在し、根の伸長を妨げていることが要因であった。

不良土壌が出現する位置に合わせて施肥法を変えることで、収量・品質を改善することを目標とした。

2 普及活動の内容

普及活動は、コムギの施肥技術の改善による収量、品質の向上を柱に、テンサイへの技術の波及を進めた。また、JA、町との連携を同時に進めてきた (表2)。

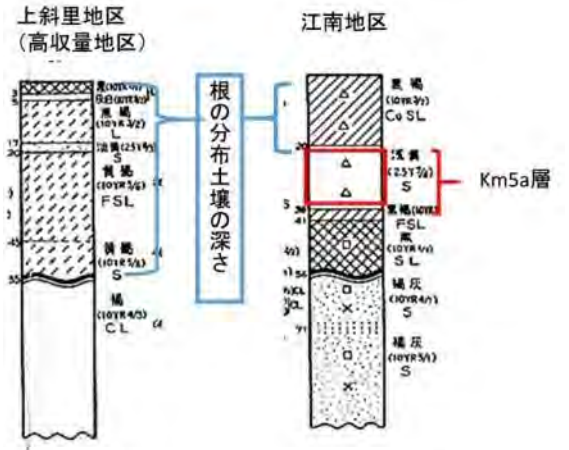


図2 江南地区土壌と上斜里地区の土壌断面 (清里町土壌調査報告より)

(1) 活動体制の構築

表2 活動経過のフロー図

機関	活動項目	活動内容	年度												
			22	23	24	25	26	27							
普及センター	肥秋改善 まき技術普及 コムギ施肥	土壌診断による施肥改善	肥料費の削減	コスト削減	経営の安定	品質の確保と収益の増加	肥料流亡の削減	環境影響への軽減							
		期生期の硝酸窒素測定に基づく窒素施肥							適正差数の確保						
		葉色値 (SPAD) を用いた追肥量の確定							製品歩留まりの向上						
	根域調査	土壌断面調と根域の調査	肥料流亡の削減	環境影響への軽減											
土壌タイプ別追肥施肥量															
レホンク	テensaイへの取組	しおれマップの作成													
	分肥技術の確立	波及、支援													
JA	地場消費の拡大	製粉業者との協力	製麺業者との製品開発	生ひやむぎ、うどん販売	地産地消の拡大										
町	食育の推進			学校給食への取り入れ											

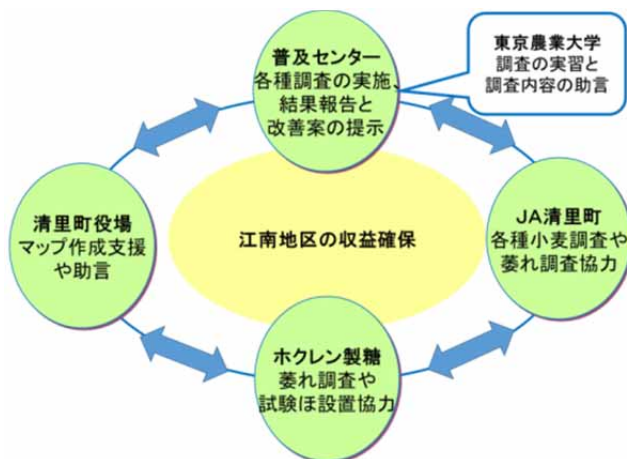


図3 普及活動の連携



写真2 km5a層による根の伸長阻害

課題の取組は、所内地域係が中心となりモデル地区への解決方針を決め、東京農業大学の技術的アドバイスとJA、町の協力体制で土壌調査、生育調査、集合研修会の開催など活動を展開した。またホクレン（糖業）のとの協力で、テンサイ栽培への応用活用を推進した（図3）。

（2）低収要因の究明

江南地区24戸を全戸訪問し、栽培及び生産状況の聞き取り調査を実施した。その中で、共通して出された課題は、「作物の早期枯れ上がり」であった。適正な生育期間を確保できない要因は土壌に起因すると考えた。

解決手法として、東京農業大学生産学部の研究資料「土壌タイプにおけるテンサイの根域分布の違いが葉の萎れと収量性に及ぼす影響」を参考に、深根性であるテンサイに着目して土壌断面調査を実施し、根系と収量の関係をみた（平成22年）。

この調査から、根数が少なくなる土層があり、その出現位置によって根系が制限されていることがわかった（図4、写真2）。地方独立行政法人北海道立総合研究機構の過去の調査結果から、根数が少ない層には保肥力の低い火山灰層（摩周岳噴火に由来するkm-5a層）が特徴的に堆積していることを確認した（図2）。

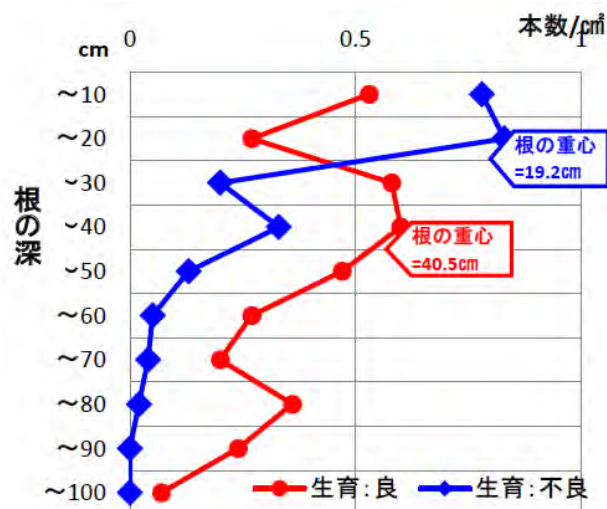


図4 根系分布の調査結果

（3）土壌断面による根系分布調査

平成23年からコムギの収穫直後に、土壌断面調査及び根系分布調査を開始した。調査は、東京農業大学との連携で行った。根系分布調査は、地表から地下1mまで穴を掘り、土壌調査を行ってから、透明ビニールシートに断面の根系を写し取り、その根数の分布度合いから根の重心（RDI：root depth index）を算出した。

根系分布型	春～止葉期の施肥量 (窒素成分 kg/10a)	追肥回数	目標収量 (kg/10a)
江南地区浅根型	12～16	4～5	480
江南地区中間型・深根型	10～12	3～4	480～540
道東地域の施肥対応目安	8～14	2～3	720

*「道東地域における起生期の土壌硝酸態窒素診断による施肥対応」から
*畑の状態と麦の生育状況をみて判断する。葉面散布分は含んでいない。

表3 江南地区の提案追肥方法

（4）根系に応じた追肥方法の提案と実証ほの設置

上記の調査結果から、①多収ほ場は、km-5a層が下層深くにあるため総根数が多く、根の重心も深い。②低収ほ場は、km-5a層が表層近くにあり総根数が少なく、根の重心も浅い。③km-5a層より下層では、土壌硝酸態窒素がほとんど存在せず、肥料が流亡しやすいことも確認した。

これらの結果から、北見農業試験場と東京農業大学の助言も得て、コムギの収量・品質を向上させるため、根の重心の位置ではほを3タイプに分類し、その根系分布のタイプに合った追肥方法（表3）を講習会や青空教室で提案すると共に、実証ほを設置した。



写真3 起生期追肥を説明するコムギの青空教室

（5）根系分布調査の継続と追肥方法の普及

1戸1筆コムギの調査ほ場を設置し、生育期節ごとに調査を行い、調査結果と追肥の判断基

準を速やかにFAXで情報提供した。土壌断面調査の実施農家には、調査結果、当年の気づいた点、さらに次年度に向けた提案を記載した資料を作成し、戸別に説明を行った。訪問の際には、農家から当年に効果のあった事柄や次年度普及センターへ要望する事項などを聞き取った。

また、江南地区での土壌断面調査及び根系分布調査を継続してきたところ、他地区の農家やJAからの要望もあり、現在では全町で調査を進めており、3年間で28ほ場の調査を実施した。

3 普及活動の成果

(1) 農業者と共に課題解決

根系調査には、農業者が重機を持ち込み自ら穴掘り作業に参加した。共に現状を確認しながら、普及活動を展開したことから「畑に対する普段感じていた印象が裏付けられた」と強い関心が示された。

地区農業者から技術導入の収量性の改善効果と期待が懇談会、アンケート調査から示された(図5)。

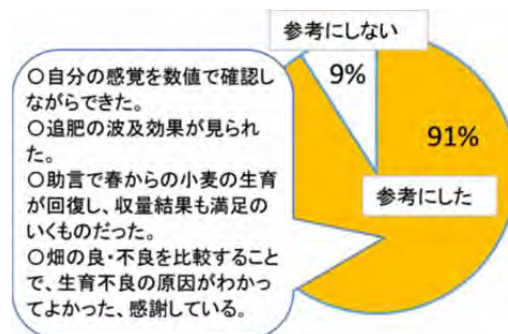


図5 地区農業者の普及センター情報の良否と感想

(2) 試験展示ほによる技術実証

土層や根系に合わせた、肥培管理をすることが重要であるとの共通認識が高まったことから、地域リーダーが普及センター提案による大型実証ほ設置に積極的に協力することとなった。その結果、実証ほの収量は780kg/10a(表5)となり8%増収し、地域への技術導入の拡大が進んだ。

(3) モデル地区の収量の改善

1戸1筆のコムギ調査ほ場を設置し、根系タイプ別に土壌硝酸態窒素や茎数の推移を確認しながら、追肥の提案を行ったことで、22戸中18戸の農業者が提案した分追肥を実践した。この結果、平成26年産では実施農家の平均収量641kg/10aと町平均(648kg/10a)並となり、江南地区の平均収量も582kg/10aと過去最高の収量となった(図6)。江南地区は、町全体の2割の面積を占めていることから、底上げを図った意味合いは大きく町全体の収量も増加している。

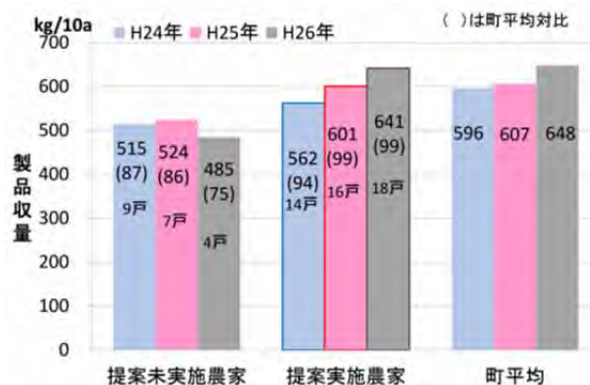


図6 秋まき小麦の10aあたり製品収量の推移

(4) 経済性の提示と効果確認

追肥回数の増加により、労働負担も増えるため、労働時間を加味して10a当たりの経済性も算出し、農家と検討した(表4)。農家からは、「追肥作業は、約半日の仕事。これで儲かるならやれる!」と確認を得た。これら実証ほの結果から、追肥方法の改善で浅根型が多い江南地区でも増収が可能であることを確信した。施肥改善を実施した農家は、「畑の根の状態を把握し、作物の状態と合わせて施肥することが大切だ」と、地下部の重要性と収量性との関係を再認識している(図5)。

表4 実証ほ10a当たりの経済性優位性(26年)

	収量 俵/10a	収入 円/10a	労働時間 hr/10a	労賃 円/10a	燃料費 円/10a	乾燥調整料 円/10a	収益(収入-労賃+燃料費)円/10a	対比
3回分追肥	12.0	108,360	0.12	120	116	15,480	92,644	100
5回分追肥	13.0	117,390	0.20	200	193	16,770	100,227	108
差額 (5回-3回)	1.0	9,030	0.08	80	77	1,290	7,583	

*収量：坪刈りデータ5反復

*小麦収入：品代2,580円/俵+交付金6,450円/俵=9,030円/俵

*10ha当たり労働時間：4hr

*1hr当たり労賃：1000円

*10ha当たり燃料費：9ℓ/hr×107円×4hr=3,852円

*1俵当たり乾燥調整料：1,290円/俵

(5) 町内への技術波及

今回の根系調査は、農業者、JA職員、普及センターが一緒に行うことで理解が深まり(図5、写真4)、江南地区に留まらず、全町に拡大してきた。作物の根を観察することで、町内でも様々な土壌があることが理解され、施肥改善が波及した結果、平成27年収穫において町内で収量1t/10a以上のほ場も出てきている。



写真4 普及職員とJA職員との根域実態調査

(6) 追肥技術の他作物への応用

この技術を基幹作物であるテンサイに活かさせないかとホクレン製糖と連携して、高温時のテンサイ萎れ程度から根系分布マップを作成し(図7)、テンサイの安定生産に向け施肥法の検討を行っている。



図7 作成中のテンサイ萎れマップ

備考 根張りの表示 ● 深根型 ● 中間型 ● 浅根型

(7) 地場産コムギを活用した地産地消

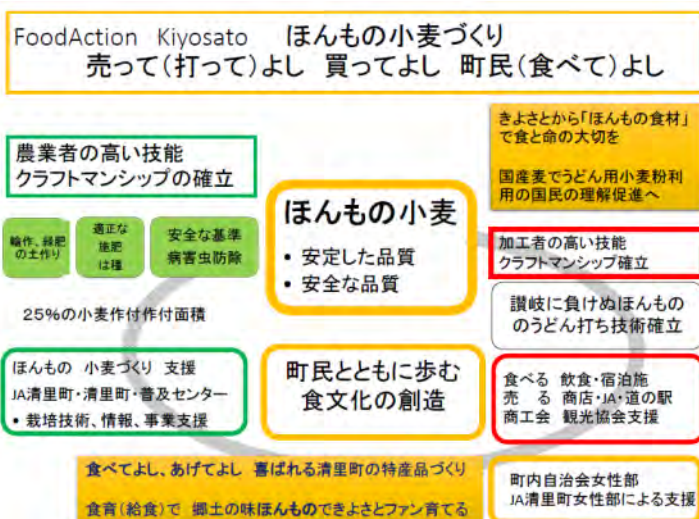


図8 JA5カ年計画に掲載されたコムギづくり図
(JAと普及センターの共作)

また、JA清里町と道内の製粉会社・製麺業者の協力で、「きたほなみ」の高い品質特性を活かした「生ひやむぎ」、「生うどん」が商品化され、JA店舗で販売された(写真5、6)。清里町では、小・中学校給食でうどんを取り入れ地産地消、食育の取組も進んでいる。



写真5 JA店舗で「生うどん、生ひやむぎ」販売をPRするJA職員



写真6 イベントに参加しTV取材を受ける「オホーツク清里虹色うどん」

4 今後の普及活動に向けて

本課題の取組は、コムギの低収要因を多角的に調査することで、下層の土壌条件を考慮した土壌タイプに応じた具体的な追肥方法提示を行い、農業者が行動した成果である。

現時点において、テンサイの高温時の葉の萎れ状況調査を行っており、この調査結果を参考に土壌と根張の目安として、テンサイ施肥への応用を検討している。

現在、当地区の根本的な土壌改善方法について、北見農業試験場との協力で改善策への取組とJA、町の協力で休閑緑肥、輪作、耕畜連携による土づくりの取組も進めており、気象条件が変化しつつある状況で、安定した作物生産につながる取組を提案していく。

「第3回農業普及活動高度化全国研究大会」の資料紹介は、今回で終了です。

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

7月20日、8月3日の主な適用拡大の内容です。

詳細はここをクリックしてください。

<http://www.i-nouryoku.com/prod/tekiyou/2016.html>

○殺菌剤

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後
ダコニール1000 (2016/7/20)	使用時期	ミニトマト	収穫7日前	収穫前日まで
	希釈倍数	茶	新梢枯死症（輪斑病菌による） 700倍	新梢枯死症（輪斑病菌による） 700～1000倍

○除草剤

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後
ゼータワンフロアブル (2016/7/20)	適用雑草	移植水稻	水田一年生雑草及び12雑草	左記にアオミドロ・藻類による表層はく離を追加
ゼータワン1キロ粒剤 (2016/7/20)		移植水稻	水田一年生雑草及び12雑草	
ゼータワンジャンボ (2016/7/20)		直播水稻	水田一年生雑草及び6雑草	
		移植水稻	水田一年生雑草及び12雑草	
カットダウン1キロ粒剤 (2016/8/3)		直播水稻	水田一年生雑草及び6雑草	
ゼータタイガージャンボ (2016/8/3)		移植水稻	水田一年生雑草及び8雑草	
アグロスクリンチャー1キロ粒剤(2016/8/3)及びアグロスクリンチャーEW(2016/8/3)	適用土壌適用地帯及び雑草名	移植水稻及び直播水稻	砂壤土～埴土及び全域の普通期及び早期栽培地帯	当該項目を削除し、全土壌及び全域で使用可能 ・・・ EW剤は稲（箱育苗）も全土壌で使用可能
		移植水稻	キシュウス*メノヒエ（関東以西） アセ*カヤ（近畿・中国・四国、九州）	キシュウス*メノヒエ アセ*カヤ

(山脇)

[目次へ戻る](#)

9月のおすすめ製品



画像をクリックしていただくと、i-農力サイトの詳細ページが表示されます。

水稻農薬

ブラシン



シリーズで良質米作りをお手伝い
美しい穂の仕上がりに♪

バリダシン液剤5



稲の紋枯病防除に！
出穂期の散布でも優れた効果♪

ダントツ



良質米づくりに 斑点米の原因
カメムシ類防除の決め手！

ベストガード



トビイロウンカに高い防除効果！
選べるタイプ&コンビネーションで
まとめて防除♪

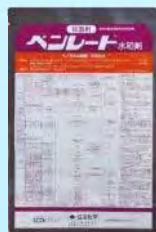
園芸農薬

ロビンフッド



食入孔にノズルを差し込み強力
殺虫！ヒメボクトウ・カミキリムシ
類を省力防除。待望の新商品！

ベンレート水和剤



水稻・果樹・野菜の病害防除！

スクレアフロアブル



なし・もも・豆・葉菜の殺菌剤！
ついに新登場！！

ダントツ



幅広い殺虫効果&優れた
浸透移行性！残効も長い♪

除草剤

ゼータタイガー



3成分配合でクログワイに底
力！3製剤勢揃いで新登場！

ゼータハンマー



2成分で高葉齢のノビエにも
高い効果！田植同時処理可

ゼータワン メガゼータ



難防除雑草に優れた効果！
3剤型勢揃い！

ゴエモン



ノビエに卓効の新規成分！
ついにジャンボ登場！

肥料

楽一



倒伏軽減剤入り
水稻用基肥一発肥料

スミショート



幼穂形成期(出穂 25 日前)
施用 穂肥が早まり安定多収

住友 液肥M号



メチオニン・グルタミン酸
添加アミノ酸入り液肥

スミカエース



野菜・果樹・花き・芝生・茶用
硝酸化成抑制材 DCS 含有

お知らせ

住化ファーム茨城 キャベツ定植

8月8日(月)から、住化ファーム茨城(茨城県守谷市)では秋冬キャベツの定植が始まりました(写真は定植約2週間後)。今年は台風が関東を通過することが多く、雨風による影響が一部の苗で出ており、捕植等に対応しています。美味しいキャベツを10月から収穫出来るように、スタッフ一同頑張っています。

住化ファーム茨城につきましては、改めて詳しくご紹介します。お楽しみに。

★住化ファーム茨城HP

<http://www.sumikafarm.com/sfi/index.html>

訪問農家さん募集!

「農家さん訪問記」の取材にご協力いただける農家さんを募集します!

必要事項を明記のうえ、お客様相談室までご連絡ください。

農家さん(i-農力会員。他薦の場合は、推薦者が会員)であれば結構です。

たくさんのご応募、お待ちしております!!



詳細はこちら

**読者プレゼント実施中!**

「i-農力だより」をご愛読いただいている会員様を対象に、「読者プレゼント」を実施しています! 毎月「農家さん訪問記」で訪れた地方の特産品(お菓子や加工品)を抽選で1名の方にプレゼントします。たくさんのご応募お待ちしております!

★応募方法★

今月号の「i-農力だより」で気になった記事を1つお選びいただき、ご意見・ご感想をお寄せください。

応募締切: **9月15日(木)**

詳細はこちら



[目次へ戻る](#)

i-農力だより農園

「i-農力だより農園」では、今月も社員が奮闘しながら作物を育てています。農家のみなさんの気持ちがわかるようになるのはいつの日か？みなさんからのコメントもどしどしお寄せください！

お客様相談を担当していると、自分で作物を栽培して病害虫の発生や肥料の効きを実感したくなります。そこで昨年からの貸農園で栽培しています。2年目ですが、今年は昨年と異なる農園です。

現在、なす、きゅうり、オクラ、トマト、ピーマンが収穫最盛期。里芋は順調に生育中。各々3~4株程度ですが、食べきれないほど収穫できます。肥料はスミカエース1号(18-10-14)。定植前に元肥として現物で50g/m²施肥しました。追肥は、なす、きゅうり、ピーマンはその1.5ヶ月後から、2週間おきに20g/m²程度を散布。マルチの下にばら撒きです。貸農園のオーナーさんから、地力があり、肥料は少なくて十分とのアドバイスで上記の施肥量にしました。昨年は砂地の圃場でしたが、今年の2倍以上施肥しました。なるほど、オーナーさんの言うように肥料が良く効きます。土壌で肥料の効果が異なることを改めて実感。(泉)

秋が楽しみな里芋
種イモは食用を転用

なすがままのなす

今回だけ
氏家です

よんだ？

さすが肥料に造詣が深い泉さん。施肥をきっちりと考えながらされていますね(私はいい加減)。今度は住友化学お薦めの液肥を使って追肥などしてみてもどうでしょうか。

さて私の菜園ですが、今はトマト、なす、ピーマン、ししとう、さやいんげん、小松菜などが収穫期です。でも夏野菜はそろそろ終わりにして秋冬野菜の準備に取り掛からなくては。ということで盆休みに秋じゃがの種いもを買って芽出しを始めています。写真はちょっと風変わりのなす2種です。加熱するとトロっとして美味しいです。

氏家農場長コメント

[目次へ戻る](#)

美味しい時間へようこそ♪

5泊6日になった夏休み大冒険

相談室から佐伯がお送りします
 食べることは生きること。
 美味しいとはなんと幸せなことか。
 日々の美味しい話を思いつくまお届けします。



『経験は宝なり』これは我々夫婦の子育ての信念でもあります。こんなことを、先月号で書いたのですが、今回は、経験は経験でも「旅」による経験の話です。先月末に少し早い夏休みをいただいて、北海道を旅してきました。北海道までは飛行機ではなく、自家用車ごと船での移動！船で北海道に行くのは親も初めてで、親にとっても子にとっても初体験の忘れられない旅となりました。もちろん旅先では美味しいものをいただいて来ましたよ～♪

まずは船が出る港、茨城県大洗港にて。船が出るのが夕方ということで、お昼には大洗港に着いて、早速お昼ご飯を食べました。港に来たからには美味しい魚を～！私が頼んだのは「あら煮定食」。色んな魚のあらを煮込んだあら煮がメインの定食ですが、これがすごかった。量がハンパない多さ！でも全部美味しい。これは何の魚かな？こども食べられるかも？と、宝探しのような気分で夢中でつかまりました。叶うことならあと1時間くらい時間が欲しかったな～。お店の人が驚くくらいに全部キレイに食べてやりたかった！そんなリベンジ心を燃えさせる見事な「あら煮」でした。ごちそうさまでした。



すごいボリューム！
 (ごはん茶碗に注目)
 4人分はあったよ・・・

そして船に揺られること19時間。北海道の苫小牧港に到着しました。



ジャガイモいももち♪

北海道では支笏湖や小樽、神威岬などを車でめぐりました。道中、いろいろな美味しいものに出会いましたが、安定の美味しさを見せてくれたのが、北海道民のソウルフードと言われる「いももち」です。もちもちとした食感と甘いタレが絶妙なこのいももちは、どこに行っても売っていて、どこのも本当に美味しかった！まさに外れなしの美味しさでした。ほかにも、いくらやイカ、ザンギ、アスパラフライなど美味しいものがたーくさん。親子でいっぱい美味しい思い出ができました。

当初は船で2泊、北海道で2泊の4泊5日の旅程でした。しかしあろうことか、帰りの船がまさかの欠航！？となり、旅先で親たちは別の船便手配や仕事の日程調整に奔走！結局、新潟経由での帰途を選んだのでした。新潟から頑張れば、その日のうちに弾丸で千葉まで帰っても来られたのですが、さすがに体力とその後のことを考えたら無理と判断し、思いがけなく新潟県南魚沼市六日町で宿泊をすることになりました。魚沼といえば、コシヒカリですよ！宿では美味しい朝ご飯が待っていました。それにおかずは手作り田舎の朝ご飯を謳った素朴だけど滋味豊かなものばかり。いや～美味しいー！と、ご飯もおかずもおかわりしちゃいました。娘も朝からもりもりとご飯を頬張っていました。宿の外には青い水田がどこまでも豊かに広がって、美しく印象的でした。



美味しいご飯は正義！

(と同時に、ウチのバケツ苗はどうなったかな？しばらく家を空けているし、ひょっとして枯れていたりして！？と急に心配になる私※下記)

さて、車でかけたこの旅です。各地で美味しい地場野菜を買い込んで来ましたよ。まるで買い出しか！？というくらいの量(笑)この続きは次号にて！(佐伯)

※バケツ苗の話は、先月号「i-農力だより農園」のコーナーをご覧ください。そして、その苗ですが、無事でした。枯れていることもなく、しかも旅から帰ってすぐ、ちゃんと出穂してくれました！ばんざーい★



～ 編集後記 ～



取材前に食べたソーキそば

私には初めての石垣島訪問。仕事とはいえ南国の島を訪問することに気分はウキウキ。羽田空港から直行便で約3時間、石垣空港に降りたつと潮気を含んだ空気が迎えてくれました。早速レンタカーを借り出してホテルへ。道中の景色は見慣れた都会のそれとは違い、確かに南国の風景でした。

レモン農家須川さんの農場も南国の植物が生い茂り、南国に来ていることを実感させてくれました。更に取材途中にスコールが！

南国の雰囲気を感じながらもインタビューは終了し、空港へ。この次に石垣島に来る時は、是非プライベートで南国を満喫しようと誓いつつ、羽田空港行の最終便に搭乗したのでした。
(玉置)

今回の取材で、都会の喧騒を離れ石垣島のレモン農家須川さんをおたずねしました。実際に園地を案内していただいたときのこと。晴天だった空が、にわかには曇ったかと思うとあっという間にスコールとなりました。

ちょうどすぐ近くに須川さんの作業小屋があり、そこで雨宿りすることに。木造りの山小屋風の作業小屋でコーヒーをごちそうになりながら、一休みして雑談です。

木の香りがする山小屋、新鮮な空気、美しい緑の森、格別なコーヒーの味…。須川さんが取材中に語っていた「ゆっくりとした時の流れの中で、連綿と紡ぐ小さな幸せ」という言葉のとおり、小さな幸せを体感した瞬間でした。
(鈴木)



次月号の - 農力だよりは
9月30日(金)の発行予定です。
どうぞお楽しみに！！



[目次へ戻る](#)